

【1. 日本側拠点機関名】

岡山大学



日本側コーディネーター
大学院教育学研究科 藤井浩樹

【2. 日本側協力機関名】

北海道教育大学、富山大学、愛知教育大学、京都女子大学、熊本大学

【3. 研究課題名】

ESD（持続可能な開発のための教育）の教師教育推進に向けた国際研究拠点の構築

【4. 研究分野】

ESD は Education for Sustainable Development（持続可能な開発のための教育）の略称です。気候変動、再生可能エネルギー、生物多様性、防災、貧困削減、持続可能な消費と生産などをテーマとし、地球の生命・社会の持続可能性を追求する新しい教育のあり方です。ESD は教育全体の中核に位置しています。

【5. 実施期間】

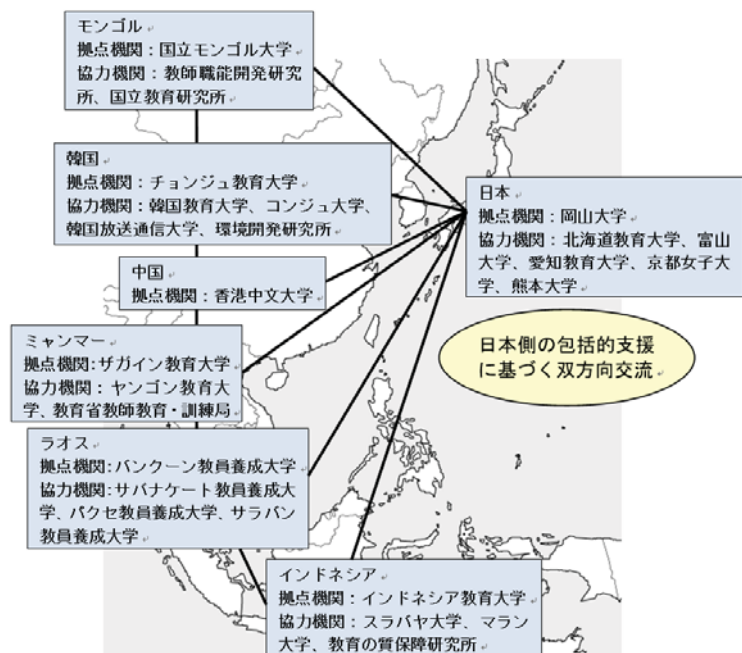
平成 29 年 4 月 1 日～令和 2 年 3 月 31 日 3 年間

【6. 交流相手国との中核的な国際研究交流拠点形成】

交流相手国と相手国側拠点機関は、中国（香港中文大学）、インドネシア（インドネシア教育大学）、ラオス（バンクーン教員養成大学）、モンゴル（国立モンゴル大学）、ミャンマー（ザガイン教育大学）、韓国（チョンジュ教育大学）です。これらの機関は各国の教師教育の拠点大学であり、教員の養成と研修に優れた実績を有しています。この実績を踏まえ、ESD の教師教育の中核的な研究交流拠点を各国に確立すること、そして拠点間の連携によってアジア初の ESD の教師教育の学術ネットワークを構築することをめざして、本事業を開始しました。

【7. 次世代の中核を担う若手研究者の育成】

ESD は、その教師教育を含めて、新しい教育分野です。若手研究者が自分の専門分野として開拓することが、ESD の継続的な発展につながります。本事業では、若手研究者の研究トレーニングや共同研究を実施することによって、若手研究者を育成することに取り組みました。



【8. 研究の背景・目的等】

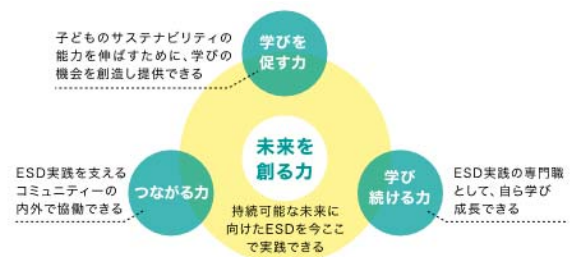
国連総会の決議 72/222 に述べられているように、ESD は「持続可能な開発目標（SDGs）」達成のための鍵となります。そして ESD の展開では、教師が大変重要な役割を果たします。そのようなことから、ユネスコは、ESD の教師教育を優先すべき行動分野としています。

こうした状況を踏まえ、アジア唯一の ESD のユネスコチェアである岡山大学は本事業（2017～2019 年度）を実施し、アジア 7 か国において ESD の教師教育の中核的な研究交流拠点の確立、学術ネットワークの構築、及び次世代の研究者の育成を進めてきました。次に政府開発援助ユネスコ活動費補助金（2018、2019 年度）を得、アジア太平洋地域 16 か国 34 の教師教育機関と協働し、この事業を発展させました。

【9. 成果・今後の抱負等】

■ アジア太平洋地域における ESD の教師教育の標準としての「ESD の教師教育のアジア太平洋フレームワーク」を開発

ESDの教師教育の
アジア太平洋フレームワーク
(コンピテンシー・フレームワーク)
出典:Okayama University(2019).
Report on the Project
"Teacher Education for ESD
in the Asia-Pacific Region".



ました。これは ESD の教師教育の世界初の国際的な枠組みです。その要素は「持続可能な未来を創る力」を核とした「ESD に取り組む教師に求められるコンピテンシー・フレームワーク」になります（上図）。事業では、この国際的な枠組みの普及をめざして、ESD の動機付け、教材・ツール開発、評価システムの確立など、各教育機関や国内、国際のレベルで取り組むべき内容を示した「ESD の教師教育プログラムの普及ガイドーアジア太平洋版ー」も作成しました。これらの成果を、2019 年 11 月 22～25 日に岡山大学で開催した「2019 ESD 教師教育世界大会」（世界 40 か国、約 200 人が参加）において発表しました。

■ ESD の教師教育の中核的な研究交流拠点を構築しました。これには事業の計画段階での 7 か国 7 機関に加えて、カザフスタン（アバイ記念カザフ国立教育大学）、マレーシア（国際イスラム大学）、フィリピン（サンジョセ大学レコレトス）、タイ（チュラロンコン大学）が含まれます。各拠点はそれぞれの国の ESD の教師教育を先導し



生態系ピラミッドについての
中学校理科の授業実践（イン
ドネシア教育大学）



再生可能エネルギー（木質バイオ
マス）に関する教員養成プロ
グラム（岡山大学）

ており、ESD の教師教育の新しいコースやプログラムを開発・実施しています。また、機関間の学術ネットワークが立ち上がっており、ESD の教師教育に関する国際誌の創刊準備に発展しています。

■ 多数の若手研究者が参画することで、次世代の ESD の教師教育の研究者が育っています。例えば、「アジアのユネスコスクールと ESD 拠点大学の連携による気候変動教育の教育課程開発」という共同研究では、若手研究者が学校や地域のニーズを合った気候変動教育に範例提示を試みています。

■ 今後の課題は、アジアから世界標準を創出することです。全世界での先端研究ネットワークを形成し、「ESD の教師教育のグローバル・フレームワーク」の共同開発を進めていきたいと考えます。